

第3回 那須塩原市庁舎建設市民検討懇談会 会議録(要旨)

開催日時：平成26年9月25日(木) 午後2時から午後4時30分

開催場所：那須塩原市本庁舎3階303会議室

出席委員：15名

欠席委員：1名

事務局：企画部企画情報課 5名

傍聴者：報道機関3社

- 1 開会 (午後2時)
- 2 会長あいさつ
- 3 検討事項 (進行：三橋会長)

(1) 既存本庁舎の課題・新庁舎の必要性について

会長： それでは、次第に従いまして、順次進めてまいりたいと思います。まず、「(1) 既存本庁舎の課題・新庁舎の必要性について」事務局より説明をお願いいたします。

事務局： 「資料1」に基づき説明)

会長： 事務局から、資料1に基づき説明がありました。資料1については、これまでの市民検討懇談会で委員の皆様から頂戴した御意見や市民検討懇談会と並行して進められている庁内検討委員会等で整理された項目になりますが、このまとめに関して、さらに御意見等がございましたら頂戴したいと思いますが、いかがですか。

委員： ここに挙げられている事項は、いずれもこうなったら良いことには間違いないと思う。ただ、それがどのように出来るのかについては、優先順位をつけていく必要性も出てくる。これらの課題は、こういうことが不便だということになっているため、それぞれの課題について、市民の目線、さらには、実際に庁舎内で仕事している職員の目線でこうなったら良いという解決策をまとめてみたらどうか。

そのため庁舎建設に関するアンケートを全職員対象に実施してみたらどうか。

会長： ただいま委員から2点、御提案がありました。1点目は、庁内検討委員会等で出された課題等を基にさらに一歩進めて、庁舎のあり方を整理し、優先順位をつけたらどうかという御意見。

2点目は、市庁舎は、市民サービスを提供することが主な役割であるとともに、市職員にとってみれば1日8時間以上、業務している場であるため、全市職員を対象としたアンケートを実施したらどうかという御意見です。この点について、事務局いかがでしょうか。

事務局： まず、今回整理した既存本庁舎の課題を解決するのが、新庁舎建設と認識しています。予算的なこともありますので、何を優先するかを検討することも必要かと思えます。課題がこれだけありますが、基本的には、適正規模の新庁舎を建設すれば、狭さの問題や構造的な課題、さらには分散化の課題なども解決できるであろうと思っております。ほとんどの課題は、狭いということから発しているため狭さが解消できれば、当然ながら防災センターなどの防災上の課題やバリアフリー化の課題、市民交流スペースの課題など、様々な課題についても根本的に解決するであろうと考えています。

次に、全職員を対象としたアンケートですが、職員は、基本的にワーキンググループや幹事会、庁内検討委員会で検討してきており、個々の担当者の考えも、ワーキンググループの中で様々な意見を出し合いながら進めておりますので、事務局としては、あえて職員に対するアンケートは不要であると思えます。

新庁舎は、職員が使いやすい庁舎ではなく、市民の皆様方が使いやすい、利便性が高くなる、良くなる庁舎を考えておりますので、アンケートにつきましては、市民の皆様を対象として実施したいと考えております。

会長： 1点目の新庁舎のあるべき姿の方向性については、庁内検討委員会で整理していただけるということによろしいでしょうか。

事務局： 庁舎のあるべき姿については、新庁舎建設基本構想案の中でお示しさせていただきたいと思えます。

委員： 今後、この懇談会がどのようなステップで進んでいくのかを知っておきたいと思うので、工程表的なものをつくっていただきたい。

事務局： スケジュールについての御質問かと思えます。今年度については、既存本庁舎の課題や新庁舎の必要性、市民が新庁舎に求めるもの、新庁舎の規模、支所機能のあり方などをまとめ、さらに規模に見合った用地を選定して、新庁舎建設の骨格となる基本構想をつくりたいと考えております。

来年度は、さらに皆様から御意見をいただきながら基本構想に細かい部分を肉付

けた基本計画を策定したいと考えております。市民アンケートの結果についても基本構想、基本計画に盛り込みたいと考えます。

委員： 庁舎建設の検討については、市民検討懇談会と議会特別委員会、庁内検討委員会等に加え、市民アンケートなども実施するという事なので、工程表として目に見える形で表しておくことが必要かと思うが、いかがですか。

事務局： 今年度の大まかなスケジュール案については、第1回市民検討懇談会の際に御説明させていただいております。

会長： 委員がイメージされている細かいスケジュールとは異なる点もあるかと思いますが、懇談会の性格上、委員の皆様の議論に基づき進めていくため、予め細かいスケジュールを描くということは難しいことを御理解いただければと思います。

委員： 前回の市民検討懇談会において、市役所は好んで行くような場所ではないと発言したが、その後、市民にとって市役所はどんな場所なのかと考えた。

ひとつには、許認可や相談などのために、本来は楽しくはないが行かなければならない場所。そのためストレスがなく市民が利用できる場所である必要があると思う。もうひとつは、市民の交流する場所等が必要である。

さらに、昨今の課題となっている人口消滅都市などは、那須塩原市も無視できない問題と思うため、自分たちが住んでいる市が、現状はいったいどうなっているのか、どういう動きをしているのかということを意識づける場所である。

具体的には、市役所に行けば、現状の人口動向や生産高を知ることができたり、市内各地の天候などがリアルタイムで見ることができたり、議会を身近に感じさせるために、議会を可視化させ、何かあるから議会を傍聴するのではなく、たまたま来庁した市民が、議会に興味や関心が持てるようにすることが必要と思う。

まとめると、1点目が嫌々ながら必要性があって来る場所、2点目が楽しみで来る場所、3点目はたまには絶対に来なければならない場所となる。これらにより、市民参加が生まれるのではないかと思う。

会長： これまでの御意見にはない、新しい御意見をいただきました。市役所に来た市民が、市政や議会に対して関心を持つ契機づくりになるのも良いかと思います。

委員： 既存本庁舎は、課題がこれだけ山積している。新庁舎は、庁舎のみならず、住みやすいまちづくりを進めていくためにも、新庁舎の周辺に図書館機能や公民館機

能、交流施設、生涯学習センターなどを備え、市民が気軽に市役所に来庁できるようにした方が良いと思う。併せて、市役所が情報発信の場になれば良いと思う。

会長： 従来の市庁舎の機能のみならず、まちづくりの機能を果たす新庁舎を建設したらどうかという意見であると思います。この件については、この先検討することとなる新庁舎の整備位置と関連するため、市が既に策定している総合計画や都市計画マスタープランなどの上位計画等について、委員の方が協議できるように事務局で整理していただくと、実りのある市民検討懇談会になると思います。

委員： 市役所は、情報発信の場所である必要があると思う。市役所に行けば、市に関する全ての情報が収集できるようなコーナーを設ければ、図書館などの建物がそこになくても良いのではないかと思うので、情報発信の方法について、細かく具体的に検討していけば良いのではないかと思う。

会長： 情報発信の場として、それほど広いスペースは必要ないけれども市役所に行けば、市に関する全ての情報が収集できるといったような機能が必要であると思います。

委員： 新庁舎の必要性は、細かい部分ではなく大きな部分で柱となるものを示していただけるとありがたい。また、市役所の1日当たりの来庁者数について、把握していれば教えていただきたい。

会長： 新庁舎の必要性の柱となる部分については、基本構想案の中で方向性を示していただき、市民検討懇談会で意見を出し合うということになるかと思います。

市役所の1日当たりの来庁者数については、なかなか難しいかと思いますが、事務局いかがでしょうか。

事務局： 時期的には、3月の確定申告の時期が非常に多いことは認識していますが、年間を通じてのデータはございません。

委員： データがあれば、比較的、市民も納得しやすいのではないかと思う。

会長： 参考までに申し上げますと、人口20万人前後のつくば市では、確定申告の時期で1,500人程度、通常は1,000人から1,200人だったと記憶しております。おそらく人口に比例すると思いますので、那須塩原市は、多い時期で900人近くになるのではと想像できますが、地域性もありますので、正確には調べてみないとわからないかと思います。

委員： 少子高齢化が進み、団塊の世代が75歳以上になる時期には、おそらく那須塩原市も高齢化率が30%近い数字になる可能性があると思う。また、2040年代頃から人口が減少傾向になるといわれているため、将来性を見据えた新庁舎の必要性を考えることが必要である。この課題は、新庁舎と支所のあり方とも結びついてくるかと思うが、いかがでしょうか。

会長： 将来的な人口予測も重要な判断材料になると思います。私が携わった日光市庁舎の議論では、最近増築した比較的新しい部分は残し、将来、人口が減少したときには、残した部分を解体し人口減少に対応するということが検討されました。その他、いかがでしょうか。

(委員：特になし)

(2) 支所機能のあり方について

会長： 次に、「(2) 支所機能のあり方について」事務局より説明をお願いします。

事務局： (「資料2」に基づき説明)

会長： 資料2に基づき事務局から説明がありました。御意見、御質問がありましたらお願いいたします。

委員： 支所機能とは、具体的に何を意味しているのか教えていただきたい。

事務局： 現在、支所で行っている窓口での手続き業務や相談業務、証明書発行などの業務です。

会長： 市民から見た場合、今ある支所機能が大幅に機能低下することはないかと思いますが、将来的には職員数も減少すると思いますので、30～40年後も現在と同じ支所機能を維持することは難しいのではないかと思います。

現本庁舎についても、新庁舎が出来ると空きスペースが出てくるため、空きスペースを有効活用する方向にするのかコストがかかるため取り壊すのか、今後、検討しなければならない課題と思います。

ここでは、支所機能のあり方ですので、各支所についての御意見等をお聞きしたいと思います。まず、塩原支所について、御意見頂ければと思います。

委員： 届出などについては、本庁に行かないで塩原支所で手続きが出来るので便利だと感じています。塩原支所に行くと、お年寄りが福祉の相談などを行っている光景を見かけるので、今後も最低限の機能は今後も維持していただきたいと思う。

不便な点としては、例えば、塩原は観光拠点であるが、観光拠点に関する決裁権が

本庁にあるため、決裁がスムーズにいかないという点がある。

常に本庁に相談したり、あるいは本庁の職員が塩原支所に来たり、自分で本庁に行ったりしなければならないという不便さがあるが、仕方がないことなのかとも思う。1番問題になると思うのは、防災拠点としての支所のあり方である。塩原地区は孤立しているため、塩原支所は、避難所であり、いざという時の防災の拠点となるが、有事の際に必要な職員がいるのかということが心配である。手続き関係だけを残した組織で日常は十分問題ないと思うが、非常時はどうなのかという心配がある。

会長： 次に西那須野支所について、御意見等をお聞きしたいと思いますが、いかがでしょうか。

委員： 西那須野支所は、私の自宅から近いが、滅多に行かないので、新しい庁舎が那須塩原駅周辺に出来れば、そんなに苦にならないと思う。西那須野支所は、図書館が隣接されているが、常に図書館内の学習室の座席が満席であるため、支所の空きスペースが活用できれば実用的であると思う。また、西那須野支所は、駅近くにあるため、イベント時の駐車場として利用するなどの利用用途はいろいろあると思う。

委員： 先ほど他の委員から話があったが、西那須野支所についても決裁がスムーズにいかない点があると思う。書類を提出してから1ヶ月、2ヶ月かかって決裁が終わったという事例があった。支所はあって欲しいが、手続きに時間がかかるのであれば、支所の職員が丁寧に案内していただきたいと思う。

西那須野支所は、先ほどの話にもあったが、図書館が隣接しているため、会議室や空きスペースを利用しての学習室や生涯学習センターなどについて活用していただきたい。

委員： 那須塩原市全体に占める西那須野地区の人口割合や西那須野地区の人口が増加傾向にあることをみると、出来る限り支所は残して、空きスペースを有効に活用していただきたいと思う。

会長： 現在の本庁舎について、御意見等をお聞きしたいと思います。

委員： 新庁舎が那須塩原駅周辺に出来れば、現在の本庁舎に行くのと距離的には、あまり変わらないと思う。

委員： 新庁舎を建設すると、現在の本庁舎に空きスペースができるため、市内で分散して行っている機能を集約し、有効活用したら良いと思う。

会長： 関連して情報提供をさせていただきますと、5つの市町村が合併した日光市では、多くの公共施設があるため、維持管理に係るコストが多くかかっているという課題があります。地域住民から見ると、施設を廃止して欲しくないという気持ちがほとんどですが、市の財源は限られているため、どのように両者のバランスを取るかが重要になってくると思います。

委員： 支所機能のあり方と本庁ということで考えた場合、黒磯地区、西那須野地区、塩原地区で大きな違いがあると思う。そのため、支所については、防災機能や手続きに関するものは、支所機能として維持することが必要だと思うが、それ以外は、本庁に母体をおいて、人口増減などその時々の方情に応じて柔軟に対応できるようにしたら良いと思う。

会長： 市庁舎の場合には、学校などに比べて、壁がそれほどないので利活用することもできるかと思っています。

委員： 新庁舎が出来れば、西那須野庁舎の2階や3階に空きスペースが出来るため、市民交流や生涯学習スペースとして利用すること以外にも、民間企業などにテナントとして貸出してみてもどうか。

会長： 国においても、そのような方向を推進しているので、財産の問題について法的制限を受ける部分もあるかと思いますが、そういったニーズがあれば不可能ではないと思います。

委員： 石巻市では、駅前の民間デパート跡地に入っている例もある。そこでは、1階はデパートとして、2階3階は行政が使用している。

会長： 県内では、栃木市が同様の方式を取っています。

かなり時間が経ちましたので、ここで10分間休憩を挟みたいと思います。

(10分間休憩)

(3) 新庁舎の規模算出について

会長： 休憩前に引き続き、会議を再開したいと思います。「(3) 新庁舎の規模算出について」、事務局より説明をお願いいたします。

事務局： (「資料3」に基づき説明)

会長： 資料3に基づき、事務局から説明がありました。規模算出のベースは、総務省及び国土交通省の基準となっておりますが、他の自治体においてもこの2つの基準を参照し、規模を算出しております。資料につきましては、総5階建てを想定した

場合という形になりますので、当然ながら仮の数字になると思いますが、御意見、御質問がありましたらお願いいたします。

委員： ワンストップサービスを実施するのであれば、必要な部署等が決まってくると思う。そのため、単純にワンフロア3, 800㎡という話ではないと思うが、いかがですか。

事務局： 総5階というのはあくまで目安ですので、レイアウトなどを含めた基本設計等の検討を行う段階で詳細な精査をすることになると思います

会長： 参考までに、現在の本庁舎の延べ床面積はどれくらいでしょうか。

事務局： 本庁の延べ床面積は、東館を含めて約8,000㎡ですので、1階の延べ床面積は、約2,000㎡となります。参考に支所ですが、西那須野庁舎の延べ床面積は約6,400㎡、塩原庁舎の延べ床面積は、約1,700㎡です。

会長： 当初の数字だけですとイメージが付きにくいものですが、今の事務局の説明で多少、数字が解りやすくなったかと思います。

委員： 議会というのは本庁舎になければならないものなのか。既存本庁舎の議場は、立派で歴史的な雰囲気もある。新庁舎に議場を作らずに既存本庁舎の議場を活用すれば、駐車場なども有効に活用することが出来るのではないか。

事務局： ひとつの考え方であるかとは思いますが、他の自治体を見ますと、ほとんどすべては、本庁舎にあると思います。

会長： 一般的に言うと、市長をはじめ市の上層部が議会に参加するため、別な場所となると様々な弊害があると思います。

委員： 単に機能的な問題ではなく、議会は本庁舎にあるべきかと思う。議会は、市民の目で監視するというのは変ですが、出来れば可視化をして、行政と市民のそばにあるべきと思う。

会長： 市民と議員の距離や市民と行政の距離は、近い方が良いのではないかと思います。

委員： 書庫については、永久保存文書が主として考えているのか。文書の保存については、デジタル化して保存することで、よりスペースを少なくするというのも考えられるのではないか。

事務局： 文書の保存は、永久保存もありますが、文書の重要性によって保存年数が決

められています。デジタル化は、地球温暖化対策などから考えても必要かと思いますが、どこまでデジタル化できるのか、またデジタル媒体自体が長期間保存できるかということもあり、現時点では必要であると判断し積算したものです。

委員： 庁舎は地上だけという考えではなく、地下という考え方はないのか。常時使用しない保存文書は、地下に保存すれば火災発生時などに安心ではないか。デジタル化は、USBメモリなどに保存するという方法があるかと思うが、データをすぐに呼び出しできなかつたり、急速な技術進歩に伴って規格が異なるなどで使用できなくなつたりするというような場合があるため、紙ベースで保存しておくことも一部必要かと思う。

会長： 国立国会図書館など多くの資料を保管・管理している建物は、24時間365日の空調費用を低減させるため地下に保管している例もあります。

事務局： 地下の利用は、書庫以外の使い方もあるかと思います。今後において、それらも検討していきたいと考えております。地下を設けないのではなく、地下についても検討していかなければならないと考えています。

委員： 市ではファイル管理に関する規定は設けているのか。

事務局： 全庁的にファイリングシステムを導入し、運用しています。

委員： 必要な面積が出た後は、土地を取得するという認識で良いのか。

事務局： 今後の進め方の話になると思います。まずは、那須塩原駅周辺で規模（敷地面積）に見合う候補地をいくつか選定する作業に入ります。それから、評価項目案を作り、この評価項目にもとづき候補地を1つに絞りたいと思います。

評価項目については、皆様にお諮りしたいと思います。また、議会特別委員会からの御意見や新庁舎の方向性などを整理した庁舎建設の骨格となる基本構想を年度内に策定したいと考えております。

会長： いずれにしても、候補地を選定する際にはひとつの目安がなければならぬため、御理解いただければと思います。その他、いかがでしょうか。

委員： 鹿沼市では新庁舎建設に係る基本構想が策定され市議会に報告されたが、その際に鹿沼市長が「東京五輪などで建設費が高騰する懸念がある。今後、規模縮小、建設時期の延期も選択枠のひとつになる」という新聞報道があった。仮に2018

年が完成目標と考えると、鹿沼市の動きと似てくると思うが、東京五輪の影響などは考慮されているのか。

事務局：自治体によってはそういう動きがあるのは認識しております。本市としては、先ほど御説明させていただきましたスケジュールに沿って進めたいと考えておりますが、当然のことながら、整備時期をいつにするのかということがあります。東京五輪の影響でどれくらい単価が高騰するのかということ想定するのは難しいと思いますし、単価についても建築方法などにより異なるかと思えます。他の自治体の例を調べてみても、単価については、ばらつきがございます。東京五輪などの影響については、実際問題として発生した場合、どこかの段階で判断しなければならないかと思っておりますが、いまの段階では、事務的に出来ることは進めていきたいと考えています。

会長：その他、いかがでしょうか。意見がないようでしたら、「4 その他」に移りたいと思います。

4 その他

事務局：（市民アンケート実施方法の案及び第5回市民検討懇談会の日程等について説明）次回の懇談会は、先進地視察を10月31日（金）に実施する予定。

会長：長時間にわたり、大変お疲れ様でした。これで第3回庁舎建設市民検討懇談会を終了したいと思います。

5 閉 会（午後4時30分）